

「臨床医のための EBM アップグレード」

森實 敏夫 著

大船中央病院内科部長

上 野 文 昭

数年前からわが国でも EBM という言葉が流行りとなったが、まだ誤解・曲解に基づく批判や誤用が少なくない。その一方で、老若を問わず賢明な臨床医たちはその本質を鋭く捉え、支持する立場に回り始めた。すなわち、個々の患者の問題点に対して最も適切な医療を提供しようという EBM の本質に対しては、臨床医として反論の余地が無いからである。

しかし本質の理解がそのまま実践に結びつくわけではない。最適の医療を提供するためにはできる限りよいエビデンスを得なければならない。これまでに出版された EBM の入門書はいずれも優れたものであり、的確なガイドとして役立っている。それでもなお情報の収集(ステップ2)と吟味(ステップ3)は骨の折れる作業であり、広汎な臨床疫学的知識を必要とする。日常診療では二次情報ソースを活用しながらこれら

のステップを簡略化する方法も是認されるが、いざというときには本格的に取り組みたいし、少なくとも知識と技術だけは有しておきたいものである。これまで臨床疫学を学習する機会を得なかった臨床医は、一步先に進めずに悩むことも多かろうと思われる。

この度「臨床医のための EBM アップグレード」と題された本書に目を通したが、まさにこのような悩みの解決策として価値が高いことが判明し感銘を受けた。“医学情報へのアクセス”や“医学知識を得る”のセクションは本格的な EBM 実践に必要な知識の宝庫である。また“研究する”のセクションはこれからの研究者にも役立つが逆に医学論文の価値を評価する上でも重要である。

豊富な内容を網羅してあるため、通読すればやや難解に映るかもしれない。しかし実際に必要とする場面で参照するならば、むしろ懇切丁寧

な記載に感謝することであろう。唯一欲を言えば、評者が日頃活用している Up To Date に関する記載にもう少し頁を割いて欲しかったが、これは個人的願望にとどめておきたい。

いずれにしろ本書は、EBM に入門して一步上を目指す臨床医、または EBM の本質を理解するも臨床疫学を学ぶ機会の少なかった臨床医にとり格好の書として推薦したい。おわりに特筆すべきは本書の結語である。単に EBM のユーザーに終始せず、常に創造する医師であることを求める森實敏夫博士の信条を、EBM を実践する者の志をアップグレードする言葉として心に刻みたい。

● B5 頁 240 2002 定価 (本体 4,500 円+税)

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)